

令和8年産 コメ通信

第6号（令和8年7月7日）

【発行】
北秋田地域振興局農林部農業振興普及課
（電話：0186-62-1835）

茎数多く、葉色淡い！生育に応じた適切な管理を！

1 気象経過及び生育状況

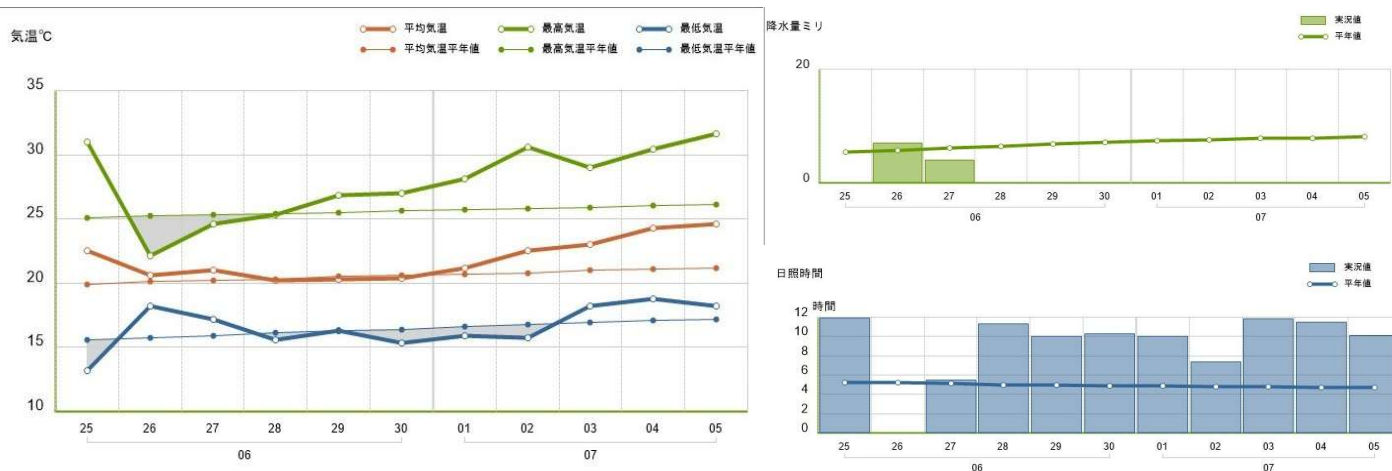


図1 気象経過図（アメダス鷹巣）

【気象経過】

- 6月6半旬から7月1半旬にかけて、最高気温は高く、最低気温が平年並と気温日較差が大きい日が続きました。また降水量が少なく、日照時間は多く推移しました。
- 7月2日に仙台管区气象台が発表した東北地方の向こう1か月の予報によると、気温は高く、降水量・日照時間は平年並となる見込みです。

【生育状況】

- 7月6日現在の生育（あきたこまち：9地点平均）は、平年と比べ草丈が短く、茎数・葉数は多く、葉色は淡くなっています。
- 生育期間を通じて降雨がほとんどなく、好天の日が続いており、分けつ発生が促進されたため、茎数は平年よりも多くなっています。
- 茎数が多かったことに加え、十分な中干しを実施できたため、葉色が淡くなったと考えられます。今後の生育に応じて、適切な管理をしましょう。

【幼穂形成期の予測】

- 日平均気温から算出したあきたこまち（中苗）の幼穂形成期（幼穂長2mm期）は、平年より 1～2日程度早まる と予測されます（表2）。
- 田植え時期や栽培管理によって幼穂形成期に差があることから、各ほ場を確認し、次ページを参考に水管理や追肥の判断をしてください。

表1 定点調査結果（7月6日）

	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (葉)	葉色
本年	51.6	612	10.7	40.5
平年	51.6	538	10.4	44.0
前年	57.9	462	10.4	42.3
平年比	96%	114%	+0.3	92%
前年比	89%	133%	+0.3	96%

※平年値は、過去10か年平均

※葉色はSPAD-502Plusでの測定値

表2 あきたこまち（中苗）の幼穂形成期予測（アメダス鷹巣）

田植日	幼穂形成期（平年値）
5月15日	7月8日（7月11日）
5月20日	7月12日（7月13日）
5月25日	7月15日（7月16日）
5月30日	7月19日（7月19日）

※7月5日以降は平年値で計算

2 中干し後の水管理

- 中干し後は、根の活力を維持するため、急激な湛水管理は避けて間断かん水を行います。幼穂形成期に土壤水分が不足すると1穂着粒数が減少しますので、**中干しは幼穂形成期まで**に終わります。
- 中干しを十分にできなかったほ場では、落水期間をやや長めとする間断かん水により地耐力を高めます。
- 「あきたこまちR」はカドミウムをほとんど吸収しないため、出穂期前後各3週間の**湛水管理は不要**です。間断かん水を実施し、土壤を酸化的条件に保つことで、根の伸長を促進しましょう。
- カドミウム含有米の発生防止対策地域で、「あきたこまちR」以外を作付しているほ場では、田面が空気に触れないように**出穂期の前後各3週間の常時湛水管理**を徹底します。

3 幼穂形成期の追肥判断

【栄養診断による追肥の判断】

- 幼穂形成期に栄養診断（図2）を行い、表3を参考に追肥を検討してください。
ただし、**基肥に緩効性肥料や有機入り肥料を使用している場合は、使用肥料の特性を考慮し、慎重に判断してください。**
- 幼穂形成期の極端な葉色低下は、1穂着粒数の減少や有効茎歩合の低下を招きます。
- 幼穂形成期に葉色が濃く草丈が62 cm以上ある場合は、倒伏の可能性が高くなるため、穂肥の施用を控えます。

表3 生育型における窒素追肥量

生育型	窒素追肥量(kg/10 a)	
	幼穂形成期	減数分裂期
I型	2 kg	2 kg
II型	2 kg	2 kg
III型	ムラ直し1 kg	2 kg
IV型	なし	2 kg
V-1型	なし	ムラ直し1 kg
V-2型	なし	ムラ直し1 kg
VI型	なし	なし

※目標収量570 kg/10 a(あきたこまち)

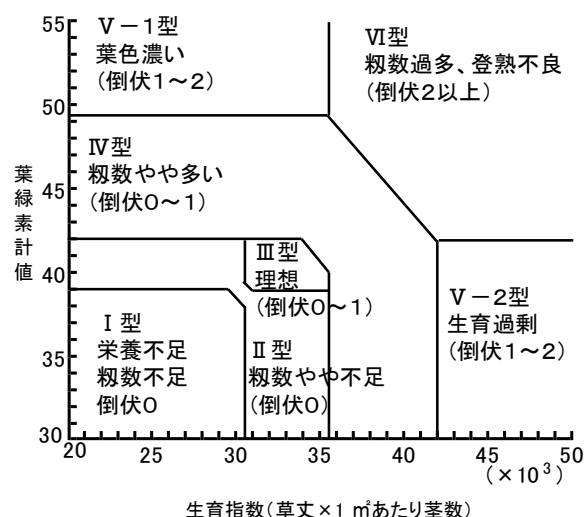


図2 幼穂形成期における栄養診断(県北)

4 主要病害虫の防除対策 ～ドリフトに注意！～

※飼料用米も主食用米と同様に、病害虫防除を行ってください。

※生育が早まっているため、防除のタイミングを逃さないよう注意しましょう！

【紋枯病】

- 病害虫防除所による発生予報（令和8年6月30日発表）では、**紋枯病の発生時期は平年よりやや早く、発生量が多い**と予想されています。前年収穫期に発生が多かったほ場は特に注意してください。
- 前年多発したほ場で、本病を対象とした育苗箱施用剤を使用していない場合は、表4を参考に、水面施用剤による防除を行ってください。
- 穂ばらみ期～出穂期の発病株率が15%を超える場合は、茎葉散布剤を稲体の株元に到達するように散布してください（表4）。

表4 紋枯病防除薬剤

種類	薬剤名（農薬成分回数）	散布時期	使用量・希釈倍数
水面施用剤	モンガリット粒剤 (1)	出穂20 ～10日前	4 kg
	リンバー粒剤 (1)	出穂15 ～5日前	
茎葉散布剤	バシタック水和剤75 (1)	出穂直前 ～穂揃期	粉剤・DL:3～4kg/10a 液剤:1,000倍 水和剤:1,000倍 [60～150L/10a] フロアブル:1,500倍 ゴル:800～1,000倍
	バシタックゾル (1)		
	バリダシン粉剤DL (1)		
	バリダシン液剤5 (1)		
	モンカットファイン粉剤20DL (1)		
	モンカットフロアブル (1)		
	モンセレン粉剤DL (1)		
モンセレンフロアブル (1)			

【斑点米カメムシ類】

- 病害虫防除所による発生予報では、斑点米カメムシ類の発生は早く、発生量はやや多いと予想されています。水田内のホタルイ等のカヤツリグサ科雑草やノビエの除草を徹底しましょう。
- 畦畔でイネ科雑草が出穂していると、斑点米カメムシ類の発生量が多くなると予想されます。出穂の10～15日前まで畦畔や農道等の草刈りを徹底し、斑点米カメムシ類の発生源をなくしましょう。

5 お知らせ

熱中症に注意！！（7月から9月は「夏の熱中症等声かけ期間」です！）

農作業中の熱中症等による死亡者が急増しています。このうち約85%が7～8月に発生しており、熱中症リスクが高くなっています。家族や職場、地域全体で気を配り、声かけによる未然防止に努めましょう。

また、20分おきを目安にこまめな休憩をとることやスポーツドリンク等で水分を補給することを意識しましょう。

万が一、不調や異常を感じた場合は作業を中断し、涼しい場所で衣服を緩めて体を冷やしましょう。意識がもうろうとしている場合や返答がおかしい場合は直ちに救急車を呼びましょう。



↑その他の熱中症対策はこちら
(農水省HP)

カドミウム汚染米発生を防止しましょう！！

- 「あきたこまちR」以外の品種を作付しているほ場では、出穂前後3週間の湛水管理を必ず実施してください。
- J A・主食集荷商業協同組合加入業者以外の集荷業者や消費者へ直接販売する場合は、出荷前にロット調査によるカドミウム分析を各自で実施してください。
- URL : <https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/90269>



詳しくは↑

ツキノワグマ出没警報（令和8年7月31日まで）

春以降、人の生活圏でのクマの目撃件数が増加し続けています。農作業時は、対策グッズを用意するなど、十分に注意してください。



ツキノワグマ情報 | 美の国あきたネット
www.pref.akita.lg.jp

問い合わせはJ Aまたは農業振興普及課まで～次回発行は7月中旬頃～